

HotLand通信

2020.1.1 »» 2020.12.31



株式会社ホットランド

証券コード: 3196



The NIPPON FAST FOOD.

株主の皆様へ

平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第30期(2020年12月期)は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、経済活動が著しく停滞するなどの影響を当社グループも大いに受け、非常に厳しい1年間でありました。

緊急事態宣言が発令された4、5月においては、一時休業となった商業施設内の店舗や繁華街の酒場業態店舗等において、約290店舗が臨時休業を余儀なくされるなど、特に上半期は収益面でも大きな打撃を受けました。緊急事態宣言解除後も、様々な新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた店舗運営を継続して行っておりまいりました。

下半期においては、主力業態である「築地銀だこ」事業において、積極的な販促キャンペーンの再開や、商品開発の強化・拡充、そして新しい時代に適応した店舗開発として、ロードサイド型店舗の開発など、様々な取り組みを推進いたしました。結果、通期での既存店売上高前年比は92.9%という水準まで盛り返すことができました。特に、9月から12月に実施した、TVアニメ「鬼滅の刃」とのコラボレーションキャンペーンは、売上・集客の回復に大きく寄与いたしました。

店舗展開においては、ロードサイド型の取り組みとして、9月にコンテナを活用した新コンセプトのドライブスルー店舗を立川に初出店、続けて11月に千葉北店、12月には駐車場を完備した相模原中央店をオープンし、いずれも好調な推移を見せております。酒場業態においては、10月にテイクアウト需要に対応した新しい酒場業態店舗である「銀だこ酒場」を初台にオープンし、好調を継続しています。「銀だこ酒場」は従前の酒場業態店舗よりもテイクアウトの売上構成比率を約50%と高く設定した酒場業態店舗で、昼はランチ・定食・弁当の販売、夜はアルコール需要も見込め、収益性の高い店舗モデルとなっています。今後、酒場業態においてはこの「銀だこ酒場」を軸に出店を計画しております。一方で、不採算店舗の積極的な閉店や業態変更を引き続き実施いたしました。

製販事業では、冷凍たこ焼の卸販売商品のうち、専門店向け商品は一部減少いたしました。大手コンビニエンスストアの導入店舗数が増加していることから、事業全体としては売上増となりました。また、製造キャパシティも拡大しており、今後は「築地銀だこブランド」のさらなる商品開発にも取り組んでまいります。

海外事業では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による店舗休業等の影響が大きく、引き続き厳しい状況となっております。

代表取締役社長

佐瀬 守男



第30期の業績は、売上高は28,732百万円(前期比11.4%減)、営業利益は1,132百万円(同32.2%減)、経常利益は1,204百万円(同24.7%減)となりました。コロナ禍における店舗の臨時休業等により発生した費用及び損失、不採算店舗の積極的な閉店等に伴う関連損失、子会社におけるのれんや海外事業における減損等で、2,051百万円の特別損失を計上したことから、親会社株主に帰属する当期純損失は1,138百万円(前期は親会社株主に帰属する当期純利益678百万円)となりました。配当につきましては、前述の当期純損失の結果から、誠に遺憾ながら第30期の配当を見送らせていただくことといたしました。株主の皆様には深くお詫び申し上げる次第です。

しかしながら、コロナ禍において、新たな発見もありました。「築地銀だこ」の出店先は、これまでは商業施設がメインでしたが、昨年後半はロードサイド型のドライブスルー、ドライブイン店舗の出店を試み、大変好調な推移を見せています。ロードサイドという新しいマーケットの可能性を見出すことができました。第31期(2021年12月期)は、同タイプの出店を積極的に行っておりまいります。既存の「築地銀だこ」業態においても、デリバリーニーズの拡大に伴い、受渡口の設置、またセルフレジの導入を検討するなど、新たな時代に合わせた店舗リフォームを進めてまいります。酒場業態においてもテイクアウト比率の高い店舗モデル「銀だこ酒場」を今後の出店の軸として、立地特性に応じた柔軟な店舗展開を行ってまいります。

第31期の業績予想につきましては、売上高32,200百万円、営業利益1,360百万円、経常利益1,320百万円、親会社株主に帰属する当期純利益370百万円を見込んでおります。配当につきましては、1株当たり5円を予定しております。

引き続き、不透明な外部環境が予想される中ではありますが、この計画の達成に向けて、全社員一丸となって邁進してまいります。株主の皆様には、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

ホットランドのブランド紹介

築地銀だこ



「築地銀だこ」は、厳選素材を使用して、皮はパリッと、中はトロッと、たこはプリッと焼き上げた“ぜったいうまい!!たこ焼”です。活気と親しみに満ちた雰囲気の中で、熟練の職人が一つひとつ心を込めて焼き上げるのが信条。まんまるアツアツのたこ焼を通して、ほっとするひと時やたくさんの方々の笑顔を提供します。



銀だこ酒場業態



ギンダコハイボール横丁

「銀だこハイボール酒場」は、アツアツのたこ焼と爽快感のある強炭酸ハイボールの最適な組み合わせをご用意。酒場限定のたこ焼に加え、種類豊富なおつまみとお酒で楽しいひと時を過ごしていただけます。

「銀だこハイボール酒場」のほかに、テイクアウトメニューも充実した「銀だこ酒場」や、天ぷら・焼鳥・鉄板焼等の専門店を集合させた屋台形式の「ギンダコハイボール横丁」など、様々な形態で幅広い世代に愛される空間を提供します。



その他ブランド



Topics

1

お持ち帰りを強化した新店舗形態の開発

「築地銀だこ」ロードサイド型店舗ードライブスルー、ドライブイン

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりテイクアウトが注目される中、当社はロードサイド型の新店舗開発に取り組んでいます。2020年9月に新コンセプトのドライブスルー店舗第1号店を出店いたしました。新コンセプトのドライブスルー店舗は、コンテナを活用することで機動的な店舗展開が可能となっています。

主力のたこ焼以外にも「銀シリーズ」のお弁当やからあげ、焼そばといった豊富なメニューを提供し、テイクアウトへのニーズに応えています。

※メニューは店舗、期間により変更場合があります。

2020年度出店実績

ドライブスルー	立川若葉町店	9月17日OPEN
ドライブスルー	マルハン千葉北店	11月12日OPEN
ドライブイン	相模原中央店	12月25日OPEN



ドライブスルー 立川若葉町店



ドライブイン 相模原中央店

テイクアウト型酒場業態「銀だこ酒場」

「銀だこ酒場」は、従前よりテイクアウトの売上構成比率を約50%と高く設定した新たな酒場業態店舗です。昼はランチ・定食・弁当の販売、夜はアルコール需要にも対応できる、収益性の高い店舗モデルとなっています。首都圏だけでなく郊外の住宅立地にも出店が見込める業態です。

6月
OPEN



新小岩北口店

10月
OPEN



初台店

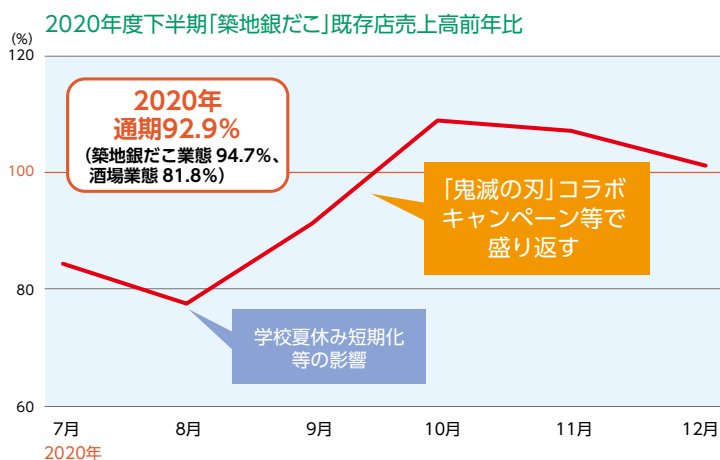
12月
OPEN



船橋店

既存店売上高の活性化に向けた取り組み

既存店に関しては、売上高の活性化に向けて、販促キャンペーンの再開や商品開発、外部コンテンツとのコラボレーションに積極的に取り組みました。特に2020年9月から12月にかけて行ったTVアニメ「鬼滅の刃」とのコラボレーションキャンペーンは、売上と集客の回復に大きく寄与いたしました。



テイクアウト専用商品の積極展開

「だんらんパック」など単価の高いテイクアウト専用商品において、「スタンプ2倍キャンペーン」やコラボパッケージ商品などの販売強化策に積極的に取り組みました。



© 1976, 2020 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. L618014

外部コンテンツとのコラボレーションキャンペーン

2020年度下半期コラボレーション

8月	PayPay「築地銀だこで最大8%戻ってくるキャンペーン」
9～12月	TVアニメ「鬼滅の刃」コラボレーション
11月	Nintendo Switch™用ゲームソフト「プロ野球 ファミスタ 2020」コラボレーション
12月	サンリオキャラクター「ハローキティ」コラボレーション
12月	平塚競輪場「KEIRINグランプリ2020」記念「みんなで参戦！TIPSTARで99%銀だこもらえる！」キャンペーン

▼株式会社ミクシィが運営する新コンテンツ
競輪ライブエンターテインメント「TIPSTAR」とのコラボレーション



製販事業

コンビニエンスストア向け 冷凍食品の販売が好調

テイクアウト需要の高まりとともに、冷凍たこ焼等のコンビニエンスストア向け商品がご好評をいただいております。大手コンビニエンスストアの導入店舗数も増加しており、今後は「築地銀だこブランド」のさらなる商品開発に取り組んでまいります。



連結財務データ

【経営成績】

	2018年度[第28期]	2019年度[第29期]	2020年度[第30期]
売上高(百万円)	31,736	32,434	28,732
売上総利益(百万円)	18,792	19,799	17,550
営業利益(百万円)	860	1,669	1,132
経常利益(百万円)	744	1,600	1,204
親会社株主に帰属する当期純利益 又は当期純損失(△)(百万円)	△678	678	△1,138
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)(円)	△36.80	35.12	△52.93

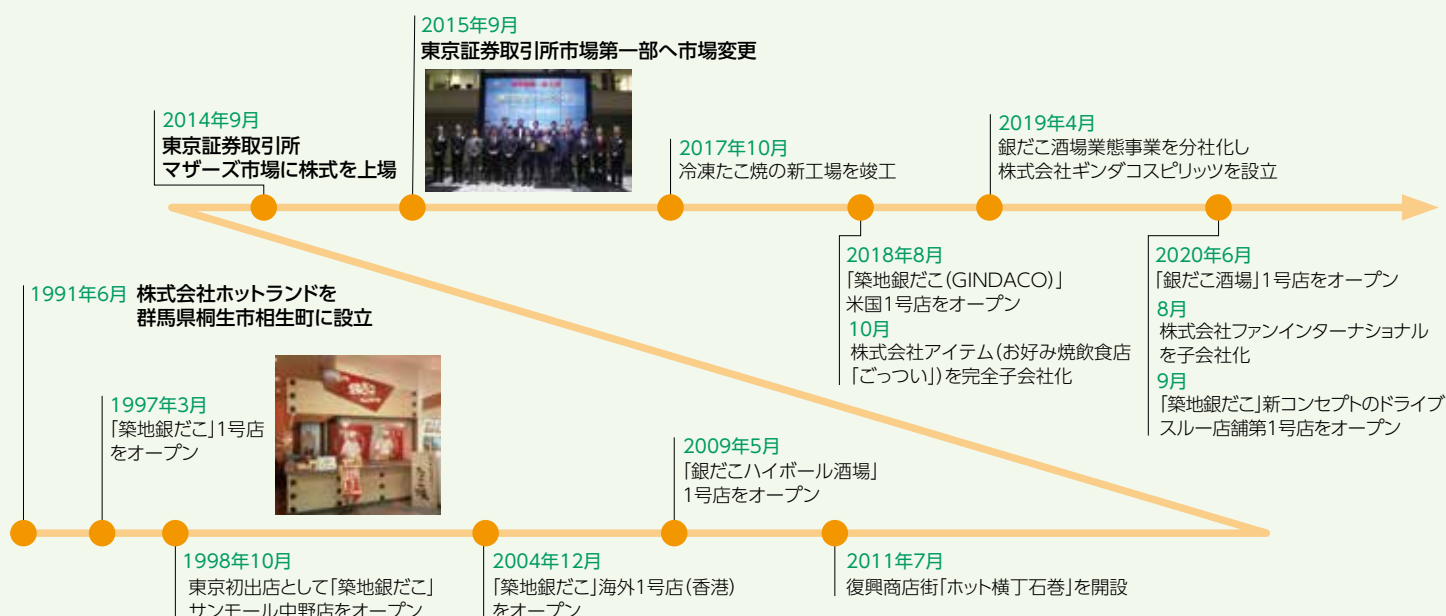
【財政状態】

	2018年度[第28期]	2019年度[第29期]	2020年度[第30期]
総資産(百万円)	16,460	17,730	18,166
純資産(百万円)	3,675	7,753	6,534
自己資本比率(%)	20.7	42.0	33.6
1株当たり純資産(円)	184.89	346.31	283.72

【キャッシュ・フローの状況】

	2018年度[第28期]	2019年度[第29期]	2020年度[第30期]
営業活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	1,721	2,365	693
投資活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	△1,854	△2,096	△1,653
財務活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	23	375	782
現金及び現金同等物の期末残高(百万円)	1,643	2,284	2,068

ホットランドの沿革



株主優待情報

当社は、株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式の投資的な魅力をさらに高め、多くの皆様に保有していただくことを目的に株主優待制度を設けております。この機会に是非当社グループのサービスをご利用いただき、当社事業をより深くご理解いただけましたら幸いです。

■優待内容

6月末日、12月末日現在で1単元（100株）以上の当社株式を保有されている株主様を対象に、全国のホットランドグループの各店舗で利用できる優待券を贈呈

100株以上500株未満

半年毎に1,500円分（年間3,000円分）

500株以上1,000株未満

半年毎に7,500円分（年間15,000円分）

1,000株以上

半年毎に15,000円分（年間30,000円分）



※日本国内の株式会社ホットランドグループの各店舗でご利用いただけます。なお、一部優待券の取り扱いのできない店舗がございます。

最新の店舗情報につきましては、当社ホームページにてご確認をお願いいたします。

(<http://www.hotland.co.jp/ir/yutai.php>)

■会社概要（2020年12月31日現在）

商号	株式会社ホットランド (証券コード：3196)
設立	1991年6月
代表者名	代表取締役社長 佐瀬 守男
資本金	32億9,609万9,900円
所在地	東京都中央区新富一丁目9番6号 ザ・パークレックス新富町
従業員数	630名
店舗数	国内581店舗・海外64店舗
連結子会社	国内7社・海外4社
出店形態(国内)	直営266店・PC146店・FC169店

■株式の状況（2020年12月31日現在）

発行可能株式総数	65,324,000株
発行済株式の総数	21,519,800株
株主数	40,669名

■大株主（2020年12月31日現在）

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社佐瀬興産	4,900	22.77
佐瀬 守男	1,628	7.57
日本製粉株式会社	1,078	5.01
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	608	2.83
イオンモール株式会社	560	2.60
佐瀬 由美子	511	2.38
サントリー酒類株式会社	509	2.37
株式会社日本カストディ銀行(信託口6)	211	0.98
オタフクソース株式会社	210	0.98
株式会社J-オイルミルズ	210	0.98

株式についてのご案内（株主メモ）

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで	株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年3月中	郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	定時株主総会 毎年12月31日 期末配当 毎年12月31日 中間配当 毎年 6月30日		
単元株数	100株		
公告の方法	電子公告により行う		
公告掲載URL	http://www.hotland.co.jp/ir/ ただし、事故その他やむをえない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。		



株式会社ホットランド

〒104-0041 東京都中央区新富一丁目9番6号 ザ・パークレックス新富町 TEL：03-3553-8885